



日本アニメーション株式会社
代表取締役社長
一般社団法人日本動画協会
理事長

石川和子

日本アニメーションの社長である石川和子氏。忙しい日々を過ごす中、健康を保つため朝ウォーキングを続けている。雨の日を除いて6時には自宅を出て、歩いて20分ほどの公園をひと回り。家族と社員の無事を祈り、その日のTODOを確認して心身を整えてから、しっかりと朝食を取る。実はこれ、父親の習慣を真似たものだという。

創業者である父・故・本橋浩一氏は、毎朝5時には起きて近くのお寺まで歩き、境内に並ぶお地藏さんの頭をなでて帰るのを日課にしていた。生前にきちんと聞いたことはなかったが、おそらく胸の中で「今日も頼むな」と声をかけていたのだろう。

2代目社長として15年。足元のビジネスは順調ながら、変革期を迎えた日本のアニメの将来のために何をすべきか、草創期を拓いた父に尋ねたいことがたくさんある。「声が大きく、元気なところは父から受け継いだDNA。そこには本当に感謝しています」。アニメという宝物を世界の子どもたちに届けるために、石川氏のチャレンジは続く。

撮影◎戸川寛

アニメは家族団らんと 子どもたちの心の涵養に寄与する 日本の基幹産業 ふさわしい支援を国に求めたい

アニメ、ゲーム、漫画を中心に、今、日本のコンテンツ産業は世界中で人気が高く、輸出額などの海外展開では半導体産業や鉄鋼産業に比肩する規模となっている。日本アニメーション株式会社は、日本のアニメの代名詞である「世界名作劇場」シリーズ(以下、「世界名作劇場」)を手掛けた制作会社。家族で楽しめる作品をつくり続け、今年6月に創業50周年を迎える。同社2代目の石川和子社長は、「うっかりペネロペ」シリーズなどの作品のプロデュースのほか、アニメ作品の世界進出に精力的に取り組む一方、一般社団法人日本動画協会理事長として業界の発展にも尽力している。石川氏に同社のこれまでの歩みと今後の取り組み、日本のアニメ産業が解決すべき課題を聞いた。

創業の理念はアニメを介して 子どもたちの心を育てること

伊藤 御社は来月、創業50周年をお迎えになりますね。誠におめでとうございます。会社を半世紀続けてこられたベースには、さまざまなチャレンジや地道な努力の積み重ねがあったか

らこそだと思います。

まず初めに、御社の創業の精神や理念からお聞かせいただけますでしょうか。

石川 ありがとうございます。いつも日々の仕事に追われて、気づけば50年という節目の年を迎えておりました。スタッフには、このことに自覚を持ち、これからもアニメづくりに励もうと言っております。

私ども日本アニメーションは1975年、父である本橋浩一が創業いたしました。理念とするのは「心の涵養に寄与するアニメづくり」です。この涵養という言葉には、今すぐにはなく、地面に水が少しずつ浸透するように育てるという意味合いがあります。子どもたちの心を癒す、心を成長させる、そんなアニメをつくる。そういう創業の思いはわれわれの心の中に受け